

川口市食育推進計画(第2次)掲載事業

報告事項2-1 参考資料（2）													令和6年度の方向性	令和6年の方向性(詳細)
No.	事業種別	事業名	実施課	担当者	該当する目標	事業内容	対象者	令和5年度実施時期	令和5年度実績	効果	課題	課題の解決策	令和6年度の方向性	令和6年の方向性(詳細)
1	掲載	配食サービス	長寿支援課	鈴木	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	対象者に、高齢者向けの夕食を毎日配食するとともに、安否の確認を行う。	食事を作ることが困難な概ね65歳以上の単身又は虚弱な高齢者世帯	通年	経費 64,917千円 延利用者数 6,856人 配食数 162,291	毎日夕食の手渡し配達により、利用者の安否確認や健康状態、生活状態が把握でき、また生活上の負担軽減、食生活の改善等により在宅生活を維持できるようになった。	カロリー、塩分量などに配慮した特別食の対応。	利用者へのアンケート等を実施してニーズを把握する。	継続	利用者向けのアンケートの実施、制限食や咀嚼・嚥下能力に応じた食事の提供、業者から提供されているメニューの把握、試食会の開催等について検討する。
2	掲載	口腔教室 (介護予防普及啓発事業)	長寿支援課	福原・外山	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	口腔機能の向上を中心とし、併せて栄養改善、運動器の機能向上等を含めた総合的な介護予防プログラムを実施する。	要介護認定を受けていない65歳以上の市民	通年	経費 9,075千円 参加者数 148人 実施回数 130回 (1教室6回) ※22教室実施	健康状態の改善又は維持により教室を終了されるかたの割合が高く、主観的健康感や基本チェックリスト等における結果も改善となる傾向となった。	参加者を増加させるため、一層の周知が必要。	高齢者の参加意欲が高まるよう、介護予防の効果を分かりやすく見える化するとともに、ケアマネジャー等へ周知し、制度への理解を図る。	継続	口腔機能の重要性を理解し、介護予防の意識を向上していただけるよう継続して実施する。
3	廃止	老人大学 (介護予防普及啓発事業)	長寿支援課		1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	高齢者の知識を広め、より充実した生活を送るための教養と健康及び生きがいづくりを図ることを目的として、一般教養、健康、芸能等に関する講演を実施する。(講演は2部構成で1部:介護予防に関する講演、2部:体操体験)	60歳以上の市民	-	R4年度事業を以て廃止のため、R5年度実施なし。				廃止	
4	掲載	楽しく、おいしい給食の提供 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	成長発達に必要なエネルギー及び栄養素を満たすとともに、食べる喜びや楽しさが感じられる給食を提供している。 旬の食材を使用した季節感のある給食や、行事食を取り入れるなどして日本の食文化を伝えており、また、新献立を積極的に取り入れることで、子どもの食体験が広がるように工夫し、和食の推進にも力を入れている。日々の給食を生きた教材として活用し、より食に親しむ機会を提供している。	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児	通年	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名	家庭では食べる機会が少なくなってきたりしている日本の伝統的な食材(ひじき・おから・切干大根など)や苦手な野菜も、他の子どもと食事をする中で給食で繰り返し提供されることで食べられるようになる子どもが増えている。	偏食や食への関心が低いなど課題がある子どももいる。また、減塩など給食も含めた食習慣の改善には、長期計画で取り組む必要がある。	偏食については個別に声掛けを行う他、苦手な子どもが多い食材は食べやすい工夫して献立に取り入れていく。また、「食べてみたい」と思えるような献立を作成し、食への関心を高めていく。子どもの頃から薄味に慣れられるよう、素材の味を生かした減塩の献立を研究する。	継続	今後も給食を通して、子どもの心身の健全な成長発達に貢献するとともに、和食の推進や食体験の広がりを目指す。また、さらに食への興味・関心を高め、食べる喜びや楽しさを感じられるような給食の提供を継続していく。
5	掲載	家庭配布用献立表の作成 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	家庭配布用の献立表に献立名の他、使用食材や栄養価を記載し、情報の提供を行っている。特に使用食材については、主に含まれる栄養素によって3群に分類して記載し、体内での働きなどが分かるようにしている。献立表を通し、バランスよく食べることの大切さも周知できるように作成していく。	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児とその保護者	通年(毎月1回)	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名及び保護者	保育所の給食献立や料理の組み合わせなど、家庭でも参考になっているようで、子どもが食べたがるのレシピを教えて欲しいという要望もある。	食への関心があまり高くない保護者もいるため、子どもだけでなく、保護者への情報提供も必要である。	家庭配布用献立表に栄養のコラムを載せるなどとして、献立以外の情報も提供していく。また、「これはどんな料理だろう」と興味を持ってもらえるような献立を作成する。	継続	今後も、給食が家庭での食育推進の一環となるように、生きた教材としての活用を行っていく。
6	掲載	ひらがな献立表の作成 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	主に5歳児を対象に、子ども向けのイラストをカラーで記載し、目で見ても楽しめる献立表として作成することで、子どもの給食に対する興味・関心を高める。	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所)5歳児	通年(毎月1回)	公設公営・公設民営保育所在籍児約900名	今日の給食は何だろう、大好きな献立はいつ入っているのかなと献立を確認している子どもたちが多く、給食に対する興味関心を感じられた。	給食前に当番が読み上げるなどの取組を行っている保育所も多いが、あまり関心を持たない子どももいる。	より興味関心を高めるため、目を引くようなイラストを入れたり、読みやすい文体にする。	継続	今後も、食に関する興味・関心が高まるよう、親しみやすい「ひらがなこんだて」の作成を行う。
7	掲載	食育だよりの作成 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食に関する情報、給食献立や旬の食材の紹介、人気献立のレシピなどを盛り込んだ「食育だより」を作成し、配信する。	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児とその保護者	通年(毎月1回)	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名及び保護者	毎月楽しみに読み、給食のレシピを参考に家庭でも作ってみたという保護者も多く、リクエストを頂くこともある。	楽しみにしている保護者がいる反面、ほとんど目を通さない保護者もいる。	簡単にできるレシピを載せるなど、すぐに役立つ内容を充実させる。また、行政の立場から、科学的根拠に基づいた情報を提供する。	継続	食に関する膨大な量の情報が氾濫している中、行政の栄養士という立場から、科学的根拠のある正しい情報を分かりやすく伝えることを目指し、今後も継続していく。
8	掲載	食の体験活動 (保育所における食育の推進)	保育運営課	各保育所担当保育士	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	園庭での野菜や果物の栽培・収穫を通して、食への興味・関心を高める。栽培したものは実際に調理して食べること、育てる喜びと食べる幸せが感じられるようになり、育てて収穫し、食べるという一連の流れを体験することで、豊かな心を育てる。	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児	通年	公設公営・公設民営保育所在籍児約3,000名	苦手な野菜でも、自分達で育てたものは食べられたという子どもも多く、好き嫌いが少なくなったなどの変化も見られる。	収穫した野菜は給食の一部に使用したり、クッキング体験を行ったりしているが、そこまでの収穫が得られないこともある。	収穫量が少ないとクッキング体験などが難しい場合もあるが、食べる以外にも観察したり、触ったり、栽培の過程を振り返ったりするなどして、食への関心を高めていく。	継続	今後も園庭栽培を通して、育てることや食べることへの興味・関心を高めていく。
9	掲載	食物アレルギーへの対策 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	医師の所見に基づく代替食や除去食の提供を基本とし、3大アレルギーの食品を使用しない献立の研究を行う。なお、食物アレルギー対応マニュアルを必要に応じて見直し、時代のニーズに沿った改訂も随時検討していく。	公設公営保育所(25ヶ所) 公設民営保育所(10ヶ所) 在籍児とその保護者	通年	公設公営保育所在籍児及び保護者	食物アレルギーの対応が分かりやすくなり、誤食防止にも役立っている。また、みんなで一緒に食べられる献立が増え、調理員・保育士の負担軽減にもつながっている。	原因食物が多様化している。	卵・乳・小麦の3大アレルギー以外にも配慮し、使用しない献立は難しくとも、代替食や除去食が作りやすいように工夫する。	継続	今後、保育所での誤食防止を第一に、食物アレルギー児でも安心して食べられる給食の提供を継続し、更なる向上を目指す。
10	掲載	食育の巡回指導 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	栄養士が巡回し、食育指導を行う。	公設公営保育所(25ヶ所)5歳児	通年(各保育所年1回)	公設公営保育所5歳児約700名	身近な食材にし、それが食卓に届くまでの流れや生産者の思いを伝えていく。指導後は、給食を残さずに食べようとする姿が見られている。	年1回しか巡回できないため、継続した指導が難しい。	一ロメモや食育ポスターを通して、継続的に食に親しむきっかけを提供していく。	継続	今後も、食への興味・関心、食べ方の改善、衛生面など様々な食に関する指導を行っていく。
11	掲載	給食の展示食 (保育所における食育の推進)	保育運営課	各保育所担当調理員	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	保育所で提供した給食・おやつ の 展示食を行い、保護者に保育所での提供量や料理の組み合わせを参考にしてもらうとともに、子どもとの会話のきっかけにもなるようにしていく。	公設公営保育所(25ヶ所)在籍児とその保護者	通年	公設公営保育所在籍児及び保護者	展示食を見ながら保護者と子どもが給食について話していることもあり、食に関する会話のきっかけにもなっている。盛り付け量など、保育所の給食が参考になったと話す保護者も多い。	展示食を行うスペースがない、保護者がゆっくり見る時間が無いなどの問題もある。	実物があると分かりやすいが、難しい場合は写真にするなどして、保護者に見てもらえるよう工夫する。	継続	今後も展示食を通して、食に関する興味・関心が高まるよう、事業を継続していく。

川口市食育推進計画(第2次)掲載事業

No.	事業種別	事業名	実施課	担当者	該当する目標	事業内容	対象者	令和5年度実施時期	令和5年度実績	効果	課題	課題の解決策	令和6年度の方向性	令和6年の方向性(詳細)	
12	掲載	給食を通した食育指導 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川 担当保育士	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	当日の給食の献立や使用食材に関する情報を子ども向けにまとめた「給食一口メモ」を作成し、保育士から伝えてもらい、日々の給食に関心を持たせることで、食への興味を高める。	公設公営保育所 (25ヶ所) 公設民営保育所 (10ヶ所)	通年	公設公営・公設民営保 育所在籍児約3,000名	給食一口メモを楽しみにしている子どもも多く、食べ物 の話題が多くなっている。	年齢に合わせた表現が難しい。	年齢によって難しい表現は、保 育士に分かりやすい言葉で伝 えてもらう。	継続	日々の給食を通して、より食に親 しんでもらう機会を増やすために、 今後も食への興味・関心が高まる ような給食一口メモを作成してい く。	
13	掲載	食育ポスターの掲示 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食育ポスターを毎月作成し、保育所で掲示する。保護者への情報提供の他、親子で楽しめるクイズなども掲載し、家庭での食育につながるようにしていく。公設民営保育所・民設民営保育所(園)にはポスターをメールで送付している。	公設公営保育所(25ヶ所) 在籍児とその保護者、公設民営・公設民営保育所	通年(毎月1回)	公設公営保育所在籍児 及び保護者、公設民 営・民設民営保育園	食育ポスターをよく見ている保護者も多く、保育所から も是非続けて欲しいとの声がある。また、公設民営 保育所・民設民営保育園 においても園に掲示して 活用してもらっている。	忙しい保護者には、なかなか ポスターを見る時間がないこと もある。	伝えたい情報がバツと目に入る よう内容やレイアウトを工夫 する。また、クイズコーナーを 充実させ、子どもと一緒に楽し める時間を作る。	継続	今後も必要とされる情報を分かり やすく伝えることができるよう工夫 していく。	
14	掲載	行事食の提供 (保育所における食育の推進)	保育運営課	鈴木 小山 小川	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	伝統的な日本の食文化について理解・関心を高めるため、献立に行事食を取り入れる。行事食を提供する際には「給食一口メモ」や「食育だより」でもその由来を説明し、意味を知って食べることで、より行事食への理解を深める。	公設公営保育所 (25ヶ所) 公設民営保育所 (10ヶ所) 在籍児	通年(毎月1回)	公設公営・公設民営保 育所在籍児約3,000名	行事食や郷土料理を楽し みにしている子どもが多く 、楽しんで食べており、 川口市の日の行事食も定 着してきた。	行事食は年1回の提供となる ものが多く、楽しみにする反 面、なかなか定着しない。郷土 料理で人気があるものは頻繁 に献立に取り入れているが、マ ンネリ化してしまうなどの問題 がある。	給食で提供しやすいようにレシ ピを工夫し、様々な郷土料理を 取り入れていく。行事食は年1 回の提供が多いが、保育所だ けでなく家庭でも作ったり話題 にしていもらえるよう、レシピな どの情報提供を行っていく。	継続	今後も給食を通じて、行事食や郷 土料理を含めた日本の食文化へ の理解を深め、和食の推進を図 る。	
15	掲載	健康・生きがいづくり通信	保健総務課	中田	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	市民の健康・生きがいづくりに関する意識や関心を高めることを目的に、年1回テーマを決めて発行する。	市民	3月	経費 配布枚数	131千円 8,500枚	各施設及び関係課だけでなく、関係団体においても幅広く配布いただいたことにより、市全体に健康・生きがいづくりに関する情報を提供することができた。		継続	健康に無関心な方が自発的に健康 づくり、生きがいづくりに、関心 を持ってもらえるような取組みを検討 していく。	
16	掲載	川口健康フェスティバル	保健総務課	廣田	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	健康フェスティバル実行委員会において、健康意識の高揚、健康づくりの啓発・普及を図るため、各種健康体験コーナーを開設する中で、食を通した健康づくりの啓発を行う。	市民	9月	経費 参加者数	3,544千円 358名	健康講演、医師等による健康相談により、健康・生きがいに関する意識の高揚が図られた。		継続	引き続き、市民の健康・生きがい に関する意識を高めていきたい。	
17	掲載	食生活改善推進員養成講座	保健総務課	塩見、坂本	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	新たな食生活改善推進員(ヘルスメイト)の養成を目的に、食生活改善や健康づくりについて学び、食生活改善推進員として必要な知識を習得してもらうために、全8回の講座を開催。 講座では、健康づくりに携わる者の基礎知識として定められた内容を、専門知識を有する医師、管理栄養士、運動指導士などを講師に20時間程度学習する。 一人でも多くのかたが、食を通じた健康づくりの担い手として、地域に密着し、食生活の改善と体力の増進を図り、市民の健康づくりのためのボランティア活動を積極的に行うことを期待するもの。	川口市民	令和5年9月から11月(全8回)	経費 参加者数	99千円 15人	受講者の健康づくりに対する意識と知識の向上に繋がった。	食生活改善推進員の平均年齢が年々高くなり、退会者が増えているため、新たな担い手を養成して会員を増やすことが不可欠となるが、受講後、協議会への入会に至らない場合が多く、会員増加に繋がりにくい。	より協議会に興味を持ってもらうよう、協議会のPR等の機会を増やす。	継続	引き続き食生活改善推進員協議会 の取組みを市民に周知するととも に、養成講座の実施内容等の見 直しも含め検討していく。
18	掲載	食生活改善推進員リーダー研修	保健総務課	塩見、坂本	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	川口市食生活改善推進員協議会は、約400人の会員があり、各公民館を拠点に活動する26支部により組織されている。 「健康づくりは家庭から」「私たちの健康は、私たちの手で」をスローガンに、食生活の改善と体力の増進を図り、市民の健康づくりのためのボランティア活動を積極的に行っており、その活動時の中心的役割を果たす支部長(リーダー)等の識能を向上させるため、毎月1回「食生活改善推進員リーダー研修」を実施。	食生活改善推進員	毎月第2水曜日(8月を除く)	経費 参加者延数 開催回数	322千円 302人 11回	リーダー研修後に各支部で行われている伝達講習等により、各会員の意識と知識の向上が図られ、その知識を地域住民に講習会や教室等で広めることで、市民の食を通じた健康づくりと体力の増進に成果を挙げている。	活動内容が固定化されているが、各支部の会員数減少や高齢化等で新しい活動の提案が起こりづらい。	他市町協議会の活動等を参考に、活動内容の見直し等を検討する。	継続	「食」を通じた市民の健康づくりを 推進していくためには食生活改善 推進員の支援は必要不可欠であり 、会員の知識等の向上のためにも 、今後も継続的に実施していく。
19	掲載	川口市の郷土食等に関する情報提供	保健総務課	梅田	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	ホームページ等で川口市の郷土食や食に関する取り組みについて情報提供を行う。	市民	通年	—	川口市独自の食文化や郷土食の文化継承に役立った。			継続	啓発活動及び取組の方策を検討し、郷土食等の文化の継承に努めていく。	
20	掲載	食育に関する情報の発信	保健総務課	梅田	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	平成29年3月に策定した川口市食育推進計画(第2次)の概要、取り組み、各種献立等を川口市ホームページに掲載し、随時、情報を提供する。	市民	通年	—	市民の食育に関する意識の啓発を図ることができた。			継続	情報発信の方法や取組の方策を検討し、食育の推進を図っていく。	
21	掲載	巡回みんなの保健室 (成人健康相談)	健康増進課	葛葉 浜口	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	予約制で、心身の健康に関する個別の相談に応じ、必要な指導及び助言を行い、家庭における健康管理に資することを目的とし、希望者には、健康チェックとして、身長・体重・腹囲・血圧測定、BMI・体脂肪計測を行う。また、保健師、栄養士、歯科衛生士による個別相談(保健、栄養、歯科等)も併せて実施している。	市民	通年	参加者数 開催回数	122名 13回	コロナ禍であるため対面相談に制限はあったが、必要な方には感染防止対策を図り実施したことで、参加者の不安を軽減でき、本人及び家族の健康管理に役立った。	利用者が少ない。	ICTを活用し周知する。	継続	周知や予約時にICTを活用し、民間施設と協働し実施する。
22	掲載	Web利用型自己採血検査	健康増進課	葛葉 浜口	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	Webによる申込制で、自宅に届いた検査キットで自己採血し、血糖・血中脂質など14項目の結果をメールで確認、その後専門職に健康相談ができる。これにより、対象者が自らの健康課題に気づき、自分に合った健康づくりができるよう支援している。	健康診査を受ける機会のない、30歳～39歳の市民	7月～9月	申込者数 受検者数	119人 105人	自宅にいながら検査ができるため、感染リスクを避け、本人のライフスタイルに合わせた健康管理に役立った。	申込が定員に満たなかった。	周知の方法の検討、自己負担額を軽減し、より受検しやすくする。	継続	自己負担金を500円へ減額し、対象を25歳～39歳と拡大し、利用を促進する。
23	掲載	健康教育	健康増進課	葛葉 浜口	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	健康増進法に基づき、生活習慣病予防及び介護予防、その他健康に関する事について(がん・肥満・ロコモティブシンドローム(運動器症候群)等)の集団健康教育を実施する。また、他部署、地域団体等からの要望により、健康教育の講師として随時出講している。	おおむね40歳以上の市民	通年	参加者数 開催回数	4,282名 112回	感染防止対策を講じ、参加人数を制限して実施。民間施設で実施したことで、広く健康や疾病予防に関する知識の普及が行えた。	疾病予防を目的としているが、参加者にリピーターや高齢者が多い。	対象者に合わせて、ICTを活用した教育を実施し、内容や会場、日時等を工夫して開催する。	継続	民間施設と協働し、対象者に合った企画内容、周知を実施する。

川口市食育推進計画(第2次)掲載事業

No.	事業種別	事業名	実施課	担当者	該当する目標	事業内容	対象者	令和5年度実施時期	令和5年度実績	効果	課題	課題の解決策	令和6年度の方向性	令和6年の方向性(詳細)
24	掲載	成人歯科保健事業	健康増進課	浜口	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	30歳以上の市民を対象に、歯と歯肉の状況をチェックする成人歯科健康診査及び、希望者に対し唾液潜血検査等の歯科ドックを行う。また、問診や視触診による口腔がん検診を実施する。 歯科医院に行くことが困難な65歳以上の市民に対し、訪問歯科健康診査を実施する。	成人歯科健康診査・歯科ドック:18歳以上の市民 口腔がん検診:30歳以上の市民 訪問歯科健康診査:市民で、寝たきり等の理由により歯科医院に行くことが困難な65歳以上のかた、または、特別障害者手当もしくは障害児福祉手当の受給資格に相当する障害者・障害児	通年	成人歯科健康診査受診者数 4,082人 歯科ドック受診者数 1,579人 口腔がん検診 1,935人 訪問歯科健康診査受診者数 157人	健診を通して自らの口腔内の健康状態や正しい知識・情報を知る機会となり、疾病の予防及び早期発見・治療、健康に対する意識の向上につながった。	受診率が低い。	受診率向上に向けて、受診勧奨・周知の方法を検討する。	拡充	感染防止対策を図り、実施していく。
25	掲載	歯と口の健康フェスティバル	健康増進課	井上 畠山 佐藤(杏)	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	う蝕や歯周病の予防、口腔機能の維持を目的とした正しい歯科保健知識の普及啓発を行い、生涯を通した口腔ケアの向上を図る。	市民	6月4日	参加者数 825人	正しい歯科保健知識の普及啓発ができ、生涯を通した口腔保健の向上を図ることができた。	令和6年2月よりリリア改修のため、新たな会場を探す必要がある。また、今後の感染状況を踏まえ、実施の有無・内容を検討する。	会場を探す。感染対策をしつつ内容を精査して実施していく。	拡充	会場をリリアから変更し、感染対策をしつつ集客を図るため、内容を見直し開催する。
26	掲載	おとなの食育講座	健康増進課	畠山 榎原	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	食事についての望ましい習慣を学びながら食を楽しむ機会の提供や適切な栄養管理に関する知識の普及や情報の提供を行う。 ・川口の郷土食で高血圧予防(6月)	おおむね64歳以下の市民	年1回(6月)	参加者数 6月:15人	調理実習を再開させたことで受講者の実践につながりやすくなった。生活習慣病予防や川口市の食資源に対する学びを深められた。	調理実習を再開させたことで、多くの申込みがあったが、少人数向けの内容になってしまう。	レシピ動画等のオンデマンド配信を実施する。感染防止対策をとり、調理実習を再開する。	継続	オンデマンド配信を活用する。
27	掲載	乳幼児健康診査	健康増進課	葛葉 浜口	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	乳幼児の心身における疾病や異常の早期発見、進行予防及び育児に関する相談・指導を行う。発育発達が気になる児及びその保護者に対し、心理相談員などが相談に応じ保護者の不安を軽減し、育児支援をする。健診未受診児に対しては、通知や訪問、関係機関への問い合わせを実施し、児の発育発達、養育環境等を確認し、併せて居所を確認している。 3・4か月児健康診査、10か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、1歳6か月児歯科健康診査、フッ化物塗布 3歳児健康診査	・3～5か月未満の乳児 ・10か月児健康診査:10か月から1歳になる前日までの乳児 ・1歳6か月児健康診査、歯科健康診査:1歳6か月から2歳未満の幼児 ・フッ化物塗布:1歳6か月から3歳未満 ・3歳児健康診査:3歳6か月から4歳になる月までの幼児	通年	受診者(利用者)数: 23,530人	乳幼児の心身の発達等を促すとともに、保護者への相談指導を通して育児不安等の軽減を図り、家庭でも適切な対応ができるようサポートができました。	コロナ禍により、1歳6か月児歯科健康診査の受診率が低い。	未受診を理由を把握し、受診率向上に向け周知方法等を検討する。	継続	未受診理由の把握、受診率の向上に努める。
28	掲載	乳幼児のむし歯予防 (乳幼児健康診査・健康相談事業)	保育運営課	森谷	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	各保育所で、年1回の歯科医師による歯科検診の実施の他、乳幼児期のむし歯予防として、歯みがき教室や紙芝居・絵本等を通しむし歯予防の大切さを知らせると共に、食後のうがい、歯みがき、フッ化物洗口等の指導を行っている。	・公設公営保育所(25ヶ所) ・公設民営保育所(15ヶ所) 在籍児	歯科検診・むし歯予防教室:6月頃～ フッ化物洗口:5月頃～	フッ化物洗口事業 1,309名	歯科検診によるむし歯の早期発見、口ゆすぎ・歯みがき・フッ化物洗口により、日々のむし歯予防に努めることができました。歯の大切さや予防の重要性について伝えることで、子どもの意識向上にもつながりました。	施設により、罹患率に差があることから、罹患率が高い施設については、歯磨きの指導等を見直す必要がある。	施設に平均の罹患率を周知することで、自分の施設の現状を認識してもらう。	継続	今後も、むし歯のない心身ともに健康な身体づくりを目指し、事業を継続していきます。また、歯の大切さや予防の重要性についても指導を続け、子ども達の意識向上に努めます。今後、実施していない保育所にもフッ素洗口の効果について伝えていき、少しでも多くの施設で実施してもらえるよう進めていく。
29	掲載	ウエルカムBaby教室	地域保健センター	小峰	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	妊娠・出産・育児等に関する知識の普及や母体の健康保持を図るため、妊産婦の食事についての情報提供等を行い普及・啓発を行う。	妊娠12週～31週6日までの妊婦とそのパートナー	毎月2回	参加者数 1,093人 実施回数 23回	講義は実施していないが、紙媒体による周知により、食事の大切さについて考える動機付けとなった。	動機付けから行動変容につながる教育方法について検討が必要。	妊産婦の食事に関する知識の普及方法について検討する。	継続	妊産婦の食事に関する知識の普及・啓発の方法について検討。
30	掲載	離乳食講習会	地域保健センター	小峰	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	離乳食の講義や試食、離乳食づくりのデモンストレーションを行い、フードモデル、食品、食器具の展示をする。	生後3～5か月の乳児とその保護者	毎月1回	参加者数 389人 実施回数 12回	離乳食の知識を普及し、乳児の心身の健全な発達を促し、保護者の育児不安の解消を図ることができた。	個人に合った食の選択ができるように、情報の普及・啓発の方法について検討が必要。	乳児の栄養に関する知識の普及方法について検討する。	継続	市民のニーズに合うように、アンケート結果等を参考にしながら、栄養に関する知識の普及方法について検討する。
31	掲載	幼児食講習会	地域保健センター	小峰	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	離乳完了から幼児期の食事についての講義、手づかみ食べをテーマとした幼児食の試食や、質問・相談を実施する。	1歳から1歳6か月の幼児とその保護者	年6回	参加者数 68人 実施回数 6回	離乳完了期に必要な栄養の知識を普及し、幼児の心身の健全な発達を促し、保護者の育児不安の解消を図ることができた。	個人に合った食の選択ができるように、情報の普及・啓発の方法について検討が必要。	幼児の食事に関する知識の普及方法について検討する。	継続	市民のニーズに合うように、アンケート結果等を参考にしながら、栄養に関する知識の普及方法について検討する。
32	掲載	食育教室	地域保健センター	小峰	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	食に対する関心・興味を持たせ、子どもが健やかに育つよう食を通じた教育を行う。 ・バランスの良い食事についての話 ・親子調理実習と試食 ・バランスの良い食事・成長期に必要な栄養などの講義	就学前年度の5、6歳児とその保護者	年2回	参加者数 14人 実施回数 2回	親子で食育体験や調理実習をすることにより、食べ物に対する関心や興味を深めることができた。	個人に合った食の選択ができるように、情報の普及・啓発の方法について検討が必要。	こどもの食事に関する知識の普及方法について検討する。	継続	市民のニーズに合うように、アンケート結果等を参考にしながら、栄養に関する知識の普及方法について検討する。
33	掲載	食の安全に関する情報提供	食品衛生課	内田	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食中毒の発生を予防するため、啓発物の配布、広報誌やホームページ等を活用し、食の安全に関する情報の提供を行っている。 食品等事業者向けの講習会や個別相談による指導・助言を行っている。	川口市民、市内食品等事業者	R5.4.1～R6.3.31	リーフレット・啓発物 583,665円 広報等周知 17回 相談・講習会 19回	食中毒事件の発生や菌・ウィルスの特徴の周知により、市民の食の安全に関する意識を高める効果があった。	なし	なし	継続	引き続き、市民・事業者に対し食に関する予防啓発・注意喚起を行い、情報をより広く普及できる方法を検討する。

川口市食育推進計画(第2次)掲載事業

No.	事業種別	事業名	実施課	担当者	該当する目標	事業内容	対象者	令和5年度実施時期	令和5年度実績	効果	課題	課題の解決策	令和6年度の方向性	令和6年の方向性(詳細)
34	掲載	特定健康診査 特定保健指導	国民健康保険課	菊島 彩花	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	特定健康診査は、生活習慣病の前段階であるメタボリックシンドロームに着目した健康診査であり、受診者のうち、生活習慣病にかかるリスクが高いと判定されたかたに対し、保健師や管理栄養士等による生活習慣改善のための特定保健指導を行う。	川口市国民健康保険に加入している40歳から74歳のかた	特定健康診査 令和5年6月～令和6年2月 特定保健指導 令和5年9月～令和6年3月	参加者数(令和6年5月27日時点) ・特定健康診査 18,354人(26.4%) ・特定保健指導 積極的支援 52人(6.6%) 動機付け支援 149人(7.5%)	特定健康診査の実施率は上昇傾向にある。	特定健康診査受診率は県と比較しても低く、なかでも40歳代を中心に若年層の受診率はとりわけ低い。特定健診受診者の多くを占める70歳代が後期高齢者医療保険へ移行していくなか国民健康保険者数は年々減少傾向にあることから、今後の特定健診受診率の低下が見込まれる。 特定保健指導実施率は県と大きく差はないが、当市の状況を経年でみると昨年と比較し微増している。一方でメタボリックシンドローム該当率は微減、予備群該当率は微増傾向であるが、県と比較すると高く、引き続き特定保健指導の未利用者対策を実施していく必要がある。	特定健康診査については、個別性に合わせた受診勧奨通知の送り分けを行い、未受診者および不定期受診者の受診率を向上させる。また若年者全体の受診率向上に向け、次年度40歳(年度末年齢39歳)となる者へ通知を送る等勧奨を強化する。 特定保健指導未利用者に対して複数回の通知勧奨と電話勧奨を行い、特定保健指導の実施率の向上を図る。また、途中脱落を防ぐため、インセンティブとして初回面接時に参加者が選択した健康に役立つ物品を終了時に付与し、終了者の増加を図る。	継続	更なる向上のため、特定健康診査については初回受診者に対してインセンティブの付与を行う。特定保健指導については健診前に生活習慣改善を促す通知の発送や健診結果説明会と初回面接の同時実施、特定保健指導修了者に対してインセンティブの付与を行う。また、国のプログラムが成果型になるため、指導内容、方法も変更する。
35	掲載	後期高齢者健康診査事業	高齢者保険事業室	豊田(隆)	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	後期高齢者医療制度加入者の健康保持や生活習慣病の早期発見を目的とし、希望者に対して身体測定・血液検査を実施する。	市内在住の埼玉県後期高齢者医療制度加入者	6月～翌年2月	参加者数 14,883人	疾病の早期発見や健康状態の保持・増進に寄与することができた。	受診率が、広域連合が定めた目標値と比較して低い。	ホームページ等の広報で案内周知し、受診率向上を図る。	継続	受診率向上に努めるとともに人間ドック検診料助成事業を後期高齢者医療制度における保健事業の柱として今後も継続実施していく。
36	掲載	エコライフDAY	環境総務課	小林	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	6月(環境月間)の「エコライフDAY(第2日曜日)」のチェックシートに「食」に関する項目をのせ、食生活においてできるエコな取り組みを呼びかけている。	市民	6月の第2日曜日	参加者数 63,279人	毎年多くの市民が参加し、食に関する啓発が進んでいる。また、主たる目的である二酸化炭素削減は、昨年度実績で56,254,537gの削減効果があつた。	意識せず取り組むことが日常的になったことや、電子化による報告忘れなどから、前年度と比べ参加者数と削減効果の実績値が低下した。	報告忘れを防ぐため、学校に担当者を設置し連絡を密に行い、保護者や生徒に周知徹底のお願いをする。	継続	参加者数を2030年度に100,000人／年となるように周知情報などを検討する。
37	掲載	「食品ロス」に関する意識啓発	資源循環課	布施	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	パネル展示、ホームページ、小学校中学年社会科学習資料、広報かわぐち及びパンフレット、市内公共施設におけるフードドライブの実施等で食品ロス問題の広報・啓発活動を行っている。	市民	通年	食品ロスパネル展示 第一庁舎 10/4～10/31 鳩ヶ谷庁舎 10/10～10/20 中央図書館 10/20～10/27 小学生用社会科学習資料を市内小学校52校に配布した	食品ロスに関する情報の周知を図ることができた。	より多くの市民に啓発する。	従来の方法に加え、各種イベント等でもパネル展示やリーフレットの配布を積極的に行う。	継続	家庭から排出される食品ロス削減のため、継続して周知・啓発を行う。
38	廃止	川口生活フェスティバル	産業労働政策課	鯨井	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	一般市民を対象に、消費者が自主性をもって健全な消費生活を営むために、商品及び役務並びにこれらの取引行為に関する知識の普及及び情報の提供を目的とし開催する。	市民	たたら祭り内	休止				廃止	廃止
39	掲載	農業体験事業	農政課	中藤 安齋	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	市民の農への理解を促進するため、農業の初心者等で家庭菜園を楽しみたい方を対象に野菜づくりの知識とコツを学ぶ講座を開催した。	市内在住・在勤	子供向け 令和5年7月1回目 令和5年9月2回目	参加者数 子供向け 20人 1回目 27人 2回目 28人	野菜作りの知識やコツを学ぶ家庭菜園講習会を実施することで、農あるライフスタイルの推進とともに市民の農に対する理解促進に貢献した。	近年、同じ会場での開催が続いており、別の会場を希望する声もあがっているため、より多くの市民が参加できるよう会場の検討が必要である。	2月の講習会の会場を変えて開催することで、より多くの市民に参加してもらえるよう事業を拡大していく。	継続	市民の農へのさらなる理解促進と家庭菜園講習会のさらなる周知拡大を図る。
40	掲載	市役所マルシェの開催	農政課	安齋 上田	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	市役所第一本庁舎1階多目的スペースで毎月1回程度開催し、地場産の新鮮野菜、鉢花、加工品等の宣伝及び販売をする。	市民・来庁者	通年 (月1回程度)	出店数 平均3.3店舗 実施回数 15回	市内で生産された特産物等の消費拡大及び農業関係者と市民の交流が深まることで、地場産業の振興に繋がった。	継続的な開催により、イベント来訪者が定着してきているものの、依然として「開催を初めて知った」「これは何のイベントなのか」といった声が寄せられるため、同イベント知名度・認知度の向上が必要である。	新たなPRチラシ・ポスターの作成など積極的に広報媒体を利用して、同イベントがより多くの市民等に浸透するよう周知強化を図る。	継続	引き続き定期開催(月1回程度)に加え、臨時開催を行うことで、より一層の市内産農産物のPRを図る。
41	掲載	公民館講座	生涯学習課(公民館等)	―	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食の大切さを学ぶ講座を実施する。	市内在住・在勤・在学のかた	通年	参加者数 延べ2121人 実施回数 延べ52講座 77回	料理の楽しさや、食べることの大切さを学ぶ機会に少ない。	料理教室といった実務実技講座が多く、座学で学ぶ講座が少ない。	実技だけではなく、健康増進や生活習慣病対策などの講座を実施する。	継続	引き続き様々な講座を実施していく。
42	掲載	中央ふれあい館講座	生涯学習課(公民館等)	―	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食の大切さを学ぶ講座を実施する。	市内在住・在勤・在学のかた	通年	参加者数 延べ885人 実施回数 延べ5講座 6回	料理の楽しさや、食べることの大切さを学ぶ機会に少ない。	料理教室といった実務実技講座が多く、座学で学ぶ講座が少ない。	実技だけではなく、健康増進や生活習慣病対策などの講座を実施する。	継続	引き続き様々な講座を実施していく。
43	掲載	生涯学習プラザ講座	生涯学習課(公民館等)	―	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	食の大切さを学ぶ講座を実施する。	市内在住・在勤・在学のかた	通年	参加者数 延べ305人 実施回数 延べ5講座 9回	料理の楽しさや、食べることの大切さを学ぶ機会に少ない。	料理教室といった実務実技講座が多く、座学で学ぶ講座が少ない。	実技だけではなく、健康増進や生活習慣病対策などの講座を実施する。	継続	引き続き様々な講座を実施していく。
44	掲載	学校ファーム推進事業	指導課	後藤	2 食を知り 食を楽しみ 温もりある心を育みます	市内小中学校から毎年10校程度をモデル校として実施。学校ファームやプランターなどを活用した農業体験活動を実施し、取組状況と成果をリーフレットにまとめ、市内の学校に啓発している。	市内児童生徒	通年	経費 700千円 小学校 7校 中学校 3校	児童生徒の勤労観・職業観が育成され、農業に関する意識が高まっている。また、保護者や地域、学校応援団などの人材を活用した持続可能な仕組みづくりが課題であった。	一部の学年では取り組めている、全学年では実施できなかったことが課題となった。また、保護者や地域、学校応援団などの人材を活用した持続可能な仕組みづくりが課題であった。	年間指導計画を見直し、保護者や地域、学校応援団のご協力をいただきながら連携を図って活動できるようにしていく。	継続	○教育課程上の位置付けを明確にし、農業者や農協等の支援がうけられるように関係機関等との連携を図る。 ○令和6年度は、飯塚小学校、原町小学校、芝南小学校、前川東小学校、柳崎小学校、朝日西小学校、里小学校、上青木中学校、十二月田中学校、芝東中学校の10校を推進モデル校として指定する。

川口市食育推進計画(第2次)掲載事業

No.	事業種別	事業名	実施課	担当者	該当する目標	事業内容	対象者	令和5年度実施時期	令和5年度実績	効果	課題	課題の解決策	令和6年度の方向性	令和6年の方向性(詳細)
45	掲載	学校訪問	学校保健課	江森 比左恵	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	特別活動を中心に、教科・領域においての食の視点を踏まえた授業を参観し、学校における『食に関する指導』の推進について指導及び助言を行い、各学校で共通理解を図り、児童生徒が食生活に対する正しい知識と望ましい食習慣をを身に付けられるよう実施している。	市内小中学校	R5.5月～R6.2月	小学校10校 中学校 8校	養護教諭・栄養教諭等の積極的な参画を得て専門性の高い『食に関する指導』が実践されており、授業実施数も増加傾向にある。指導体制も充実してきている。	児童生徒に共通した問題を取り上げてはいるが、自身の生活上の問題を受けとめ、課題に向き合うことなく行われている授業がある。そのため、児童生徒は授業での学びを通し、最終的に今後の生活を考え、自ら改善して、生涯にわたって望ましい食習慣が形成されるようにしなければならない。	学校訪問や食に関する指導推進研修会を通し、指導方法や提示する資料の工夫について指導していく。	継続	栄養教諭等が常駐していないセンター配送調理小中学校における『食に関する指導』の推進、校内における食育コーディネーターの育成も含め、学校給食を「生きた教材」として活用した『食に関する指導』の推進に向け働きかけていく。
46	掲載	歯科保健指導の充実	学校保健課	濱 五月	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	口腔衛生に関する指導資料冊子を作成し、各学校の授業等において活用することで、歯科保健活動の充実を図る。	市立小学校1年生・中学校1年生の児童生徒	各学年6月頃～	経費 406千円 配布数 9,800冊 配布回数 1回	むし歯予防や早期発見、早期治療を図ることにつながり、また自分の歯や口腔衛生に関する意識改善に寄与することができた。	口腔衛生は、子供の生活環境や食生活の影響を受けるものであることから、学校だけでなく、家庭や地域社会との連携が不可欠である。	冊子を活用して、家庭地域へ発信するよう学校に発信していく	継続	児童生徒が口腔衛生に関する正しい知識と望ましい習慣を身につけ、口腔衛生の保持を深め、自分の健康は自分で守る意欲・意識の向上のために、本事業を継続していく。
47	掲載	小児生活習慣病予防検診	学校保健課	折本 美奈	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	定期健康診断の結果、肥満度が30%以上となった児童生徒のうち希望者に対して、血液検査、身体測定、血圧測定を行い、児童生徒の将来的な生活習慣病罹患を予防し、生涯にわたり健康な生活を送ることができるようにする。	肥満度30%以上の児童生徒(市立小学校4年生・中学校1年生)のうち受診希望者	10月～12月	実施回数 3回	児童生徒の健康状態を把握し、望ましい生活習慣への改善のための指導や、必要な場合は医療機関の受診を促すなど、将来の生活習慣病予防に向けた取組を促進することができた。	受診対象者及び保護者の健康保持増進への意識を高め、受診率を上げる。	受診対象者及び保護者が受診しやすい日程とする。受診対象者及び保護者へ受診の必要性を認識してもらえるようにする。	継続	土曜日の実施の継続。受診対象者及び保護者が受診しやすい日程を検討する。啓発冊子等の配布や通知方法を工夫することで受診者を増やし、事業の効果を高める。
48	掲載	給食だより等の発行	学校保健課	安部 幸一	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	食知識を定着させるため、毎月1回給食だより等を教室やランチルーム等に掲示し、さらに、市ホームページにも掲載している。また、毎月1回発行の家庭に配布している献立表には、使用された食品を3色食別に表記し、栄養価等の情報を提供し、学校と家庭との連携を図っている。	市立小・中学校の児童生徒とその保護者	通年	給食だより 11回 献立表 11回	児童生徒及び保護者に学校給食に関するこののみならず、衛生管理や健康管理等への関心を高めてもらい、食育の推進に寄与することができた。	家庭に配布している献立表がA4サイズで作成しているため、情報量が多すぎて全てを記入することが困難、また文字が小さくなってしまふ。	裏面を使用していないので、裏面の活用方法を提案していく。	継続	さらに食育の推進のため、今後も事業を継続していく。
49	掲載	食に関する指導推進研修	学校保健課	江森 比左恵	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	学校教育活動全体で食に関する指導を推進する上で、中核的な役割を担う教員・栄養教諭等の食に関する指導の充実と資質の向上を目的とし、令和4年度に県の委嘱を受け様々な授業実践や取組を行った本町小学校の教員を指導者に迎え、研修を行った。	市内小中学校教職員、栄養教諭、学校栄養職員	R5.10.26	参加者数80名	実際に市内小学校で行われた授業実践や様々な取組を知り、それぞれの学校での取組の参考となった。	研修に参加した教員への「食に関する指導」の周知は図れているが、それ以外の教員への周知が十分とは言えない状況である。	「学校における食育の推進」が学習指導要領に明確に位置付けられていること、学校教育活動全体の中で効果的に実施する必要があることを各研修等で指導する。	継続	食に関する指導の効果的な指導方法や、校内体制の整備も含め、学校が『食に関する指導』をより一層推進できるよう、実践的な研修にしていく。
50	掲載	給食主任会	学校保健課	江森 比左恵	1 学んで実践！ 私に合った健康な食生活	学校給食の概要、学校給食の運営と事務手続き等を周知するとともに、学校給食における食物アレルギー対応の内容等を中心に、校内における給食主任の役割について確認している。	市内小・中学校給食主任、学校給食センター栄養士	R5.4.14	参加者数90名	年度当初に開催することで、今年度目標とする取組やアレルギー対応について周知することができ、また、給食主任としての基本的な役割を確認することで、自校の取組を更に充実していく一助となった。	4月中旬の研修日程のため、年度当初の各校における給食に関する研修は終了し、すでに給食の指導が始まっている段階である。	「川口市立小中学校における食物アレルギー対応マニュアル【3訂】」に沿った学校給食運営が行われるよう各研修会や栄養士による巡回指導等で周知していく。	継続	引き続き、学校給食の運営、食に関する指導の推進、食物アレルギー対応の核となる給食主任の効果的な情報交換の機会となるよう努めていく。
51	掲載	学校給食における行事食・郷土食の提供	学校保健課	安部 幸一	3 川口の食文化 知ろう 創ろう つなげよう	学校給食において行事食・郷土食を取り入れ伝統的な日本の食文化や地域の食文化を紹介し、季節の食べ物や各地の風土・産業・文化・歴史等に培われた食材・産物の存在を知り、日本の食文化を大切にしていこうとする気持ちを育む。また、献立委員会において、喫食時の状況や残菜状況を報告し、献立作成に反映させている。	市内小中学校の児童生徒	通年	小学校 52校 中学校 26校 行事食 10回 郷土食 37種 延べ3336回	地域の産物(地場産物)を使用した郷土料理や行事食といった特別な給食を通して地域や食への興味、関心、理解を深め、日本の伝統文化や季節の節目、食の大切さなどを学び、次の世代に受け継いでいくことに繋がる効果があった。	定番の給食献立として日々提供している郷土食についてあらためて周知する機会が少ない。	給食だよりやHPなどで発信していく。	継続	食育の推進のため、今後も事業を継続していく。